

モモ・ウメにおける クビアカツヤカミキリ防除マニュアル



地方独立行政法人
大阪府立 環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries,
Osaka Prefecture

はじめに

クビアカツヤカミキリ(以下、クビアカ)は、モモ、ウメ、スモモなどバラ科の果樹類を加害し枯死させる外来の害虫です。大阪府内の果樹園地では、2016年にウメ、2017年にモモでクビアカによる被害が初めて確認されて以降、被害が広がっています。

クビアカは、完全に防除することが難しい害虫ですが、**成虫の発生時期(6月～8月)における薬剤の散布と、薬剤以外の防除方法を組み合わせる**(防除カレンダー:P3)ことで、被害を最小限に抑えることができます。本マニュアルでは、各防除方法のポイントをまとめましたので、現場での防除の際には、本マニュアルの必要な部分を印刷し、参考にしてください。

クビアカツヤカミキリ

成虫の形態的特徴

- ・体長: 20mm～40mm
- ・**頭部の下(前胸背板)が赤く**、一対の突起
- ・体全体が黒く光沢があり

生態

- ・寄主: モモ、スモモ、ウメ、サクラなどバラ科樹木
- ・幼虫は4月(早い年は3月)から10月に寄生樹から木くずやフンの混ざったものを排出
- ・成虫は6月から8月に野外で活動し樹皮の割れ目や隙間に産卵



オス

触角: 体長より長い



メス

体長と同程度



幼虫

クビアカ被害の見分け方(幼虫が出す木くず)

クビアカ



木くず排出孔＋うどん状

クビアカ
(拡大)



薄く削られた形状

コスカシバ



少量＋顆粒状

モモのクビアカの防除カレンダー(例)

農薬の散布と、それ以外の防除方法を組み合わせることが重要

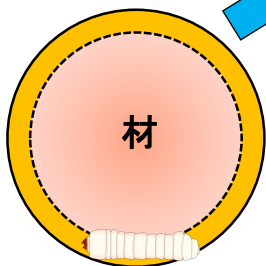
月	旬	モモ生育・栽培管理	幼虫(木くず) 2年1化想定			成虫発生数	対象害虫	防除対策		
			1年目	2年目	3年目			散布剤 (IRACコード)	散布剤以外を組み 合わせる	
4	上	開花	木くず出す (材の奥で蛹の部屋をつくる…6～11月)	蛹部屋の中				・エアゾール剤 (P4) ・掘り取り (P4) ・ネット巻き (P8,9) ・脱出孔封鎖 (P10) ・生物農薬 (P10)		
	中					(落花後) アブラムシ類、シンクイムシ類、 モモハモグリガ	ロディー乳剤(3A)			
	下									
5	上	袋掛け			↓ 蛹					・ネット内の 成虫見回り (P8)
	中						カイガラムシ幼虫		アプロード水和剤(16)	
	下						アブラムシ類、シンクイムシ類、 モモハモグリガ		アディオン乳剤(3A)	
6	上	収穫		卵↓幼虫	羽化脱出	少	クビアカツヤカミキリ、 カイガラムシ類、シンクイムシ類、 モモハモグリガ	スプラサイド水和剤 (1B)注:収穫前日数	必要に応じて ネットを外す	
	中					中	クビアカツヤカミキリ、 アブラムシ類、シンクイムシ類、 モモハモグリガ	モスピラン 顆粒水溶剤(4A)		
	下					多	クビアカツヤカミキリ、 カメムシ類、シンクイムシ類、 モモハモグリガ	テツパン液剤(28)		
7	上					中				
	中						アブラムシ類、カメムシ類、 シンクイムシ類、モモハモグリガ	ロディー乳剤(3A)		
	下									
8	上		木くず出す	蛹の部屋に入った後は、木くず出さない		少	クビアカツヤカミキリ、 アブラムシ類、シンクイムシ類、 モモハモグリガ	モスピラン 顆粒水溶剤(4A)		
	中						(収穫後) コスカシバ	トラサイドA乳剤 (1B) ※樹幹散布		
	下									
9 ～ 11					活動休止				散布剤は、葉だけでなく樹全体に (幹にも)十分に散布すること 成虫を少なくすれば被害を減らせます	・エアゾール剤 ・掘り取り
12 ～ 3										

エアゾール剤や掘り取りの作業時期

エアゾール剤処理や掘り取りは、秋(1年目幼虫)と、初夏と(2年目幼虫)に行う

幼虫のいる場所

幼虫1年目(夏)～



樹皮と材の間

2年目初夏～

材の奥に蛹の部屋をつくる

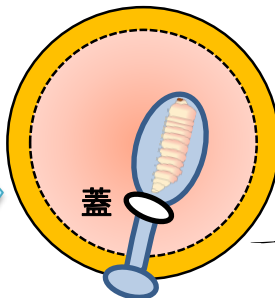


成虫のときに脱出する孔をつくる(P8)

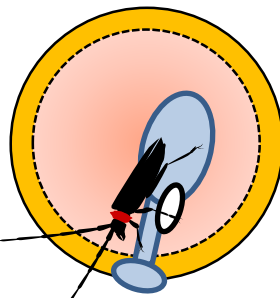
木くず出さない
木くず出す

2年目秋～3年目春

薬剤が届かない+材の奥で掘り取れない

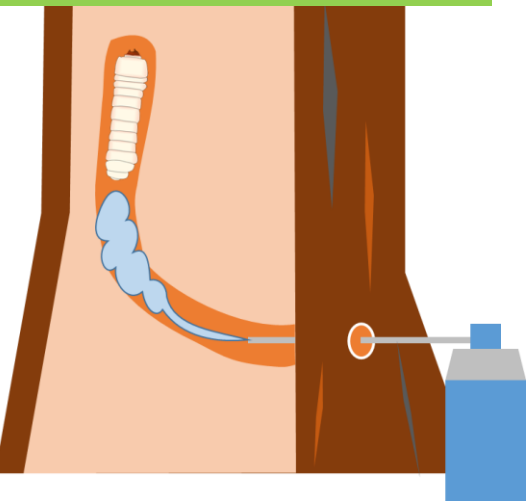


蛹の部屋の中で越冬



成虫で脱出

エアゾール剤



1. 木くず排出孔に詰まっている木くずを千枚通し等でかき出す。
2. 薬液を噴出させながら排出孔にノズルを差し込み噴射する。
3. 1週間後に木くずが出なくなったことを確認する。
再び木くずが確認された場合は、もう一度試す。



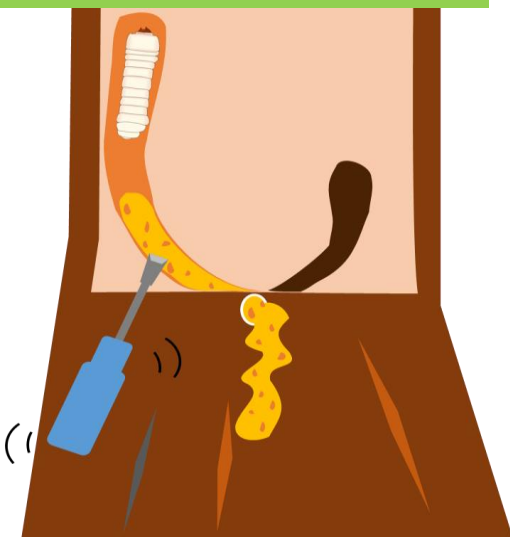
【必要な物品】

- ・農薬:ロビンフッド
- ・千枚通し



木くず排出孔

掘り取り



1. 木くずの排出があった孔の周辺(=近くに幼虫がいる)の樹皮をノミやドライバーなどではぐ。
2. 新鮮な木くず(色が明るく、粒の形が残る)が詰まっている方向に掘りすすめる。
3. 幼虫は木くずが詰まっていない空間の先にいるので、掘り取る。



【必要な物品】

- ・ノミやドライバー

モモで使用可能な農薬一覧

散布剤:P3

	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
モスピラン顆粒水溶剤	4A	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	収穫前日 まで	3回 以内
アクタラ顆粒水溶剤	4A	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	収穫前日 まで	3回 以内
テッパン液剤	28	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	収穫前日 まで	2回 以内
ハチハチフロアブル	21A	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、 収穫前日 まで	2回 以内
スミチオン乳剤	1B	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、 収穫3日前 まで	6回 以内
ダントツ水溶剤 ベニカ水溶剤	4A	クビアカツヤ カミキリ	2000倍	散布	収穫7日 前まで	3回 以内
オリオン水和剤	1A	クビアカツヤ カミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、 収穫14日 前まで	2回 以内
スプラサイド水和剤	1B	クビアカツヤ カミキリ	1500倍	散布	収穫21日 前まで	2回 以内
スプラサイドM	1B	クビアカツヤ カミキリ	200倍	樹幹部及び主枝に散布	収穫60日 前まで	2回 以内

エアゾール剤:P4

	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
ロビンフッド ベニカカミキリムシエア ゾール	3A	カミキリ ムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズ ルを差し込み噴射	収穫前 日まで	5回 以内

生物農薬:P10

	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
バイオリサ・カミキリ (果樹類)	生物 農薬	クビアカツヤ カミキリ	1本／樹	主幹又は主幹の分枝部分 に巻き付ける	成虫発 生初期	—
バイオセーフ	生物 農薬	クビアカツヤ カミキリ	2500万頭 (約10g) 2. 5Lに希釈	木屑排出孔を中心に薬液 が滴るまで樹幹注入	幼虫発 生期	—

ウメのクビアカの防除カレンダー(例)

農薬の散布と、それ以外の防除方法を組み合わせることが重要

月	旬	ウメ 生育・ 栽培 管理	幼虫(木くず) 2年1化想定			成虫 発生 数	対象害虫	防除対策												
			1 年 目	2 年 目	3 年 目			散布剤 (IRACコード)	散布剤以外 を組み 合わせる											
2	下	開花		活動 休止	蛹 部 屋 の 中															
3	上																			
	中	発芽							木くず出 す (材の奥で蛹の部屋をつくる…6～11月)	↓ 蛹		アブラムシ類	アディオン乳剤(3A)	・エアゾール剤 (P4) ・掘り取り (P4) ・ネット巻き (P8,9) ・脱出孔封鎖 (P10) ・生物農薬 (P10)						
4	下																			
	上														収穫	卵 ↓ 幼虫	羽化脱出	少	クビアカツヤカミキリ	ダントツ水溶剤(4A)
5	中																			
	下		木くず出 す	蛹の部屋に入 った後は 木くず出さ ない		中	クビアカツヤカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤(4A)												
6	上																			
	中	木くず出 す							蛹の部屋に入 った後は 木くず出さ ない		多	クビアカツヤカミキリ	ダントツ水溶剤(4A)							
7	下																			
	上													木くず出 す	蛹の部屋に入 った後は 木くず出さ ない		中	クビアカツヤカミキリ	ダントツ水溶剤(4A)	
8	中																			
	下		木くず出 す	蛹の部屋に入 った後は 木くず出さ ない		少	クビアカツヤカミキリ	テッパン液剤(28)												必要に応じて ネットを外す
9 ～ 11	上																			
	中	木くず出 す							蛹の部屋に入 った後は 木くず出さ ない			散布剤は、葉だけでなく樹全体に (幹にも)十分に散布すること	・エアゾール剤 ・掘り取り							
12 ～ 2	下																			
	上													木くず出 す	蛹の部屋に入 った後は 木くず出さ ない			成虫を少なくすれば被害を減らせます		
12 ～ 2	中																			
	下		木くず出 す	蛹の部屋に入 った後は 木くず出さ ない																

ウメで使用可能な農薬一覧

散布剤:P3

	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
モスピラン顆粒水溶剤	4A	クビアカツ ヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日 まで	3回 以内
ダントツ水溶剤 ベニカ水溶剤	4A	クビアカツ ヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日 まで	3回 以内
アクセルフロアブル	22B	クビアカツ ヤカミキリ	1000倍	散布	収穫前日 まで	3回 以内
テッパン液剤 (小粒核果類)	28	クビアカツ ヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日 まで	2回 以内
アクタラ顆粒水溶剤	4A	クビアカツ ヤカミキリ	2000倍	散布	収穫7日前 まで	2回 以内
オリオン水和剤	1A	クビアカツ ヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、 収穫7日 前まで	3回 以内
スミチオン乳剤	1B	クビアカツ ヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期 但し、 収穫14日前 まで	2回 以内
スプラサイド水和剤	1B	クビアカツ ヤカミキリ	1500倍	散布	収穫14日 前まで	2回 以内

エアゾール剤:P4

	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
ロビンフッド ベニカカミキリムシエア ゾール	3A	カミキリ ムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズル を差し込み噴射	収穫前 日まで	5回 以内

生物農薬:P10

	IRAC コード	適用害虫	希釈倍数	使用方法	使用 時期	使用 回数
バイオリサ・カミキリ (果樹類)	生物 農薬	クビアカツ ヤカミキリ	1本／樹	主幹又は主幹の分枝部分に 巻き付ける	成虫発 生初期	—
バイオセーフ	生物 農薬	クビアカツ ヤカミキリ	2500万頭 (約10g) 2. 5Lに希釈	木屑排出孔を中心に薬液が 滴るまで樹幹注入	幼虫発 生期	—

農業用ネットを巻き付ける (作業手順・巻き方のポイント P.7)

被害樹からの成虫の拡散防止と未被害樹への産卵防止



成虫発生期(6月～8月)の
見回り(週2～3回)は必須!!
⇒ネット内の成虫は殺す

被害がある部位や主幹や主枝など、太くて、樹肌が荒れている部位までネットを巻く。地際部のネットの端は土中に埋め込む。

農業用ネットで覆う

主枝・主幹の全体をネットで覆う方法

(エアゾール剤や掘り取りがネットを外さず作業が可能)



樹の真上からの写真

ネットを主枝の上部で固定し、下に垂らして、地際部はネットの端を土中に埋め込む。

ネット巻き作業手順

出典:大阪府泉州農と緑の総合事務所 農の普及課
「クビアカネット巻きマニュアル」 改変

ネットを樹幹・枝ごとに裁断し、裁断したネットを継ぎ合わせて樹を覆う



① ネットを裁断



② 部位ごとに固定



③ ネット同士をつなげる

巻き方のポイント



ネット端はヒモでしばり、
地際は土を被せ、成虫
の脱出や侵入を防ぐ。



ネット巻きには
ホッチキスを使う。



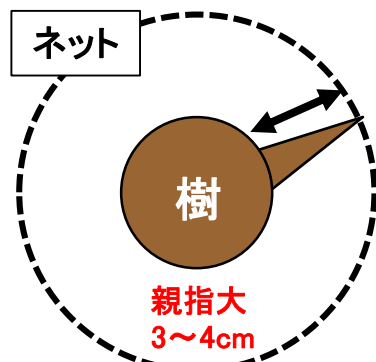
樹体とネットに
隙間をあけて巻く
(親指大を目安)

【必要な物品】

- ・農業用ネット
(目合い: **0.4~4.0mm**)
- ・ひも(麻ひもなど)
- ・ホッチキス
(中型: 3号針くらい)
- ・はさみ
- ・スコップ
(地際部の土被せ用)



ネット同士も隙間なくつなげる。



側枝やひこばえを利用して
隙間を生み出す。

成虫脱出孔の封鎖

幼虫は、蛹室をつくると同時に、成虫になったときに**脱出するための孔**を作る



キリトリ線のように薄く樹皮が残った楕円形の孔が、大量の木くずが排出されている孔の近くに作られる。

脱出(6月)より前に、樹木切口被覆材などで脱出孔にフタをして脱出を防ぐ

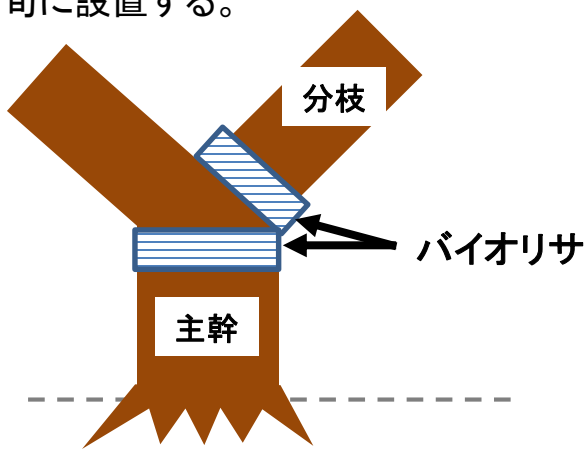


脱出孔から蛹の部屋に続く道を確認し、奥から順に資材で埋める。
硬めの粘土状資材を使用した場合、6割くらいの成虫の脱出が防げる。

生物農薬

昆虫病原性糸状菌資材(商品名:バイオリサ・カミキリスリム)の使用は、菌が付着した不織布を主幹、又は主幹の分枝部分等にかけて設置する(矢印)。資材に接触し、感染した**成虫**は2週間程度で**死亡**する。

大阪府内では、成虫発生直前期の6月上旬に設置する。



天敵線虫製剤(商品名:バイオセーフ)の使用は、事前に排出孔に詰まった木くずを取り除いた上で、噴霧器を使って薬液を木くず排出孔にあふれ出すくらい十分量を注入することで、**幼虫を殺虫**する。

生きている線虫を使った製剤です。乾燥や高温は線虫の活性の低下を招くため、処理時は曇天が望ましい。入手後すぐに使用しない場合は、冷蔵庫で保管する。



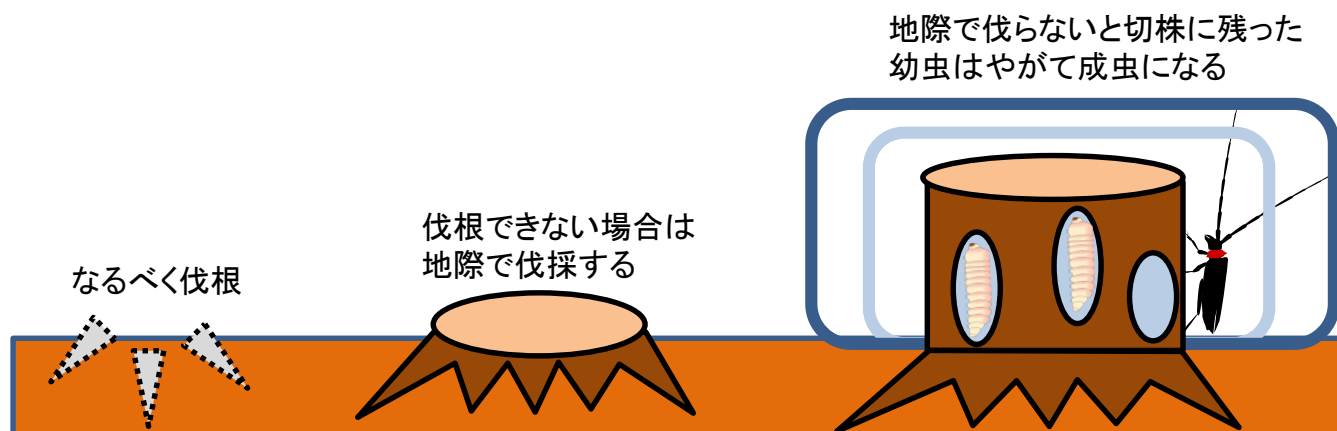
製剤を水で希釈して使用

被害樹の伐採

伐採時期： 9月から翌年4月（成虫の脱出時期を避ける）

留意点： なるべく伐根する。

伐根できない場合は、地際で伐採し、根株をビニールシート等で2重に覆う。



切株から木くずが出てきた場合（＝幼虫が樹皮のすぐ下にいる）、株全体の樹皮を剥いでおけば幼虫は活動できなくなる。



地際で伐採できなかった切株はネットや肥料袋で2重に覆って成虫の拡散を防ぐ。

植替え

老齢樹や被害が進み回復の見込みがない樹は伐採し、積極的に植替えすることを検討ください。

若木ほどクビアカの被害を受けにくい傾向にある。

被害樹の処分と運搬の方法

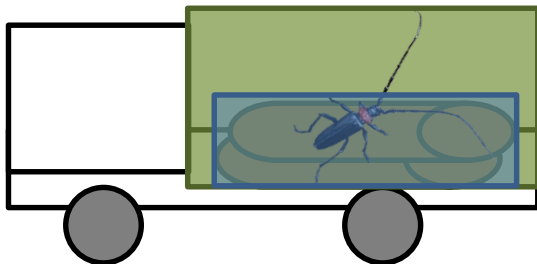
クビアカは、2018年1月に「外来生物法」による特定外来生物に指定されました。これにより、飼養、保管、運搬、輸入、野外への放出などが原則禁止となりました。伐採や処分の際には、特に注意が必要です。

破砕処分：現地でチップー、又は近隣のチップ工場で破砕。厚さは10mm以下を目安

焼却処分：市町村の焼却施設もしくは清掃工場で焼却

※現地での野焼きは原則禁止（廃棄物の処理と清掃に関する法律）

運搬中の逸出防止措置：樹や虫が落下しないように、ネットやビニールシート、あるいは幌付きの車や荷台の上からシートをかぶせるなど2重に被覆し運搬する。



「外来生物法」は指定された種の保管や運搬等を禁止していますが
クビアカツヤカミキリの運搬及び保管については、環境省から通知(右:QRコード)
「外来生物法の規制に係る運用(クビアカツヤカミキリの運搬及び保管)」
が発出されていますので、被害樹の処分前に詳細を必ずご確認ください。



=問合せ先=

地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部 防除グループ
〒583-0862 大阪府羽曳野市尺度442
TEL: 072-958-6551 FAX: 072-956-9691

発行元



地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries,
Osaka Prefecture

(令和4年4月作成)

表紙写真(被害樹):大阪府病虫害防除所提供